

1920

第 三 八 號

保存期限

決裁指定

次官

決行指定

柳淵

大 臣		件 名	番 受
大 臣		植 民 地 防 空 法 施 行 令 二 關 ス ル 件	領 號
主務局長	次官	政務次官	
昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日

政務次官 回付 決裁前運帶 軍事(案四課) 案三課

(決行後) 決行後 覽回	連 帶	長 局	長 局
			軍務
長 課	長 課		
			案四課
			案三課
			案三課

起元應(課)名

防 備 課

書記官

審 案

決行(決裁)後 回覽課名

1920/3/16
防備課

陸普

次官ヨリ參謀次長へ照會

別冊防空法臺灣施行令案、防空法樺太施行令案及關東州防空令案ハ決定案ニシテ近ク閣議ニ申請セラルヘキモノナルニ付異存ナクハ至急回答相成度

陸普第六二二三號

昭和三年十月十六日



(12)

1622

防空法臺灣施行令案

勅令第

號

防空法臺灣施行令

第一條

防空法ハ第十三條第二項、第十四條第二項及

第二十條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス

第二條

防空法中第十六條及第二十二條ノ規定ヲ除ク

ノ外勅令トアルハ臺灣總督府令トス

同法中主務大臣トアルハ臺灣總督トス但シ同法第十

一條中主務大臣トアルハ臺灣總督、臺灣軍司令官、

馬公要港部司令官トス

同法中防空委員會トアルハ臺灣防空委員會トス

第三條

防空法第二條及第九條第二項中市町村長トアルハ市尹、街庄長トシ同法第九條第一項及第十一條中地方長官又ハ市町村長トアルハ地方長官、郡守、市尹、警察署長又ハ街庄長トシ同法第十二條中市町村長トアルハ郡守、市尹、警察署長若ハ街庄長トス

同法第十五條中北海道又ハ府縣、市町村長トアルハ州廳、市尹又ハ街庄長トシ市町村トアルハ市街庄トス

同法第十七條中第十五條第一項ノ規定ニ依リ北海道、府縣、市町村トアルハ第十五條第一項及防空法臺灣施行令第六條ノ規定ニ依リ州廳、市街庄トシ北海道、府縣又ハ市町村トアルハ州廳又ハ市街庄トス

第四條

防空計畫ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ防空法

第二條ニ規定スル者ノ外知事又ハ廳長ノ指定スル郡

守又ハ警察署長之ヲ設定シ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受

クバシ

第五條

防空法第十三條第一項ノ規定ニ依リ補償ヲ受
クベキ者補償ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ
通知ヲ受ケタル日ヨリ、供用、收用又ハ使用ノ後六
月ヲ經過シテ補償金額ノ決定ノ通知ヲ受ケザルトキ
ハ其ノ期間經過シタル日ヨリ六月以内ニ臺灣總督ノ
定ムル所ニ依リ其ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ規定ハ防空法第十四條第一項ノ實費辨償ニ之
ヲ準用ス

第六條

郡守又ハ警察署長ガ防空計畫ノ設定、防空ノ實施、防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備、防空法第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練又ハ同法第十二條ノ規定ニ依ル給與ヲ爲スニ要スル費用ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ州廳及市街庄ノ負擔トス

第七條

臺灣ニ於ケル防空法ノ施行ニ付テハ本令ニ定ムルモノ外防空法施行令第五條、第七條、第十四條及第十五條ノ規定ニ依ル但シ同令第五條中内務大臣トアルハ臺灣總督トシ陸軍大臣又ハ海軍大臣トアルハ臺灣軍司令官又ハ馬公要港部司令官トシ市町村長トアルハ郡守、市尹、警察署長及街庄長トシ同令第七條中防衛司令官、師團長、要塞司令官、鎮守府司令長官若ハ要港部司令官トアルハ臺灣軍司令官若ハ馬公要港部司令官トシ同令第十五條中内務大臣トアルハ臺灣總督トシ陸軍大臣及海軍大臣トアルハ陸海軍司令

1631

官
ト
ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

時局ニ鑑ミ戦時又ハ事變ニ際シ航空機ノ來襲ニ因リ生ズベキ危害ヲ防止シ又ハ之ニ因ル被害ヲ軽減スル爲陸海軍ノ行フ防衛ニ則應シテ陸海軍以外ノ者ノ行フ防空ニ關スル法規ヲ必要トスルヲ以テ特例ヲ設ケテ防空法ヲ臺灣ニ施行スルノ要アルニ由ル

1634

防空法
法
樺太
施行令
(案)

勅令第 號

防空法樺太施行令

第一條 防空法ハ第二十條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ樺太ニ施行ス

第二條 防空法中地方長官トアルハ樺太廳長官トシ防空委員會トアルハ

樺太防空委員會トス

同法中主務大臣トアルハ樺太廳長官トス但シ同法第十一條中主務大臣

トアルハ樺太廳長官、陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

第三條 防空法第十五條ノ規定ニ依リ北海道又ハ府縣ノ負擔スル費用ハ

樺太ニ於テハ之ヲ國庫ノ負擔トス

第四條 防空法施行令中内務大臣又ハ地方長官トアルハ樺太廳長官トシ

道府縣トアルハ樺太トシ道府縣防空委員會トアルハ樺太廳防空委員會

トス

同令別記様式中主務省、廳府縣トアルハ樺太廳トス
 防空法施行令第一條第二項、第九條第二項及第十一條中認可ニ關スル
 規定ハ樺太廳長官ノ設定スル防空計畫竝ニ樺太廳長官ノ定ムル療養又
 ハ葬祭ニ要スル費用ノ支給ニ關シ必要ナル事項及實費辨償ニ關シ必要
 ナル事項ニ之ヲ適用セズ

第五條 防空法施行令第五條第一項ノ命令ハ樺太廳長官防空法第三條第
 一項ノ防空計畫ノ設定者及關係アル市町村長ニ對シ之ヲ發ス

第六條 防空計畫ノ設定又ハ認可ヲ爲ス場合ニ於テ陸海軍ノ行フ防衛ニ
 則應セシムル爲必要アル事項ニ關シテハ樺太廳長官ハ防空法施行令第

七條ノ陸海軍司令官（陸海軍司令官ト稱ス以下之ニ同ジ）ニ協議スベ

シ

第七條 官廳防空令ニ依ル各省大臣ノ職權ハ樺太廳長官ノ管理スル施設ニ關シテハ樺太廳長官之ヲ行フ

第八條 樺太廳長官ノ設定スル官廳防空計畫及其ノ監督ニ屬スル行政官廳ノ設定スル官廳防空計畫ハ樺太廳長官ニ於テ陸海軍司令官ニ協議スベシ

官廳防空令第二條第一項ノ規定ニ依リ樺太ニ在ル施設ニ關シ各省大臣及其ノ監督ニ屬スル行政官廳ノ設定スル官廳防空計畫ハ樺太廳長官、陸軍大臣及海軍大臣ニ協議スベシ

第九條 樺太廳長官ハ防空法施行令第五條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ開始又ハ終止ヲ命ズルトキハ同時ニ其ノ監督ニ屬スル關係アル官廳防空

計畫ノ設定者竝ニ關係アル各省大臣及其ノ監督ニ屬スル官廳防空計畫ノ設定者ニ其ノ旨通知スベシ

前項ノ通知アリタル場合ニ於テ防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シテハ防空法施行令第六條ノ規定ヲ準用ス

第十條 樺太廳長官ノ管理スル施設ニ關スル燈火管制ノ實施及訓練ニ關シテハ防空法第八條及第十條第三項ノ規定竝ニ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス但シ之ニ依リ難キ事項ニ關シテハ樺太廳長官ハ陸海軍司令官ト協議シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

各省大臣樺太ニ在ル施設ニ關シ官廳防空令第五條但書ノ規定ニ依リ別段ノ規定ヲ設クル場合ニ於テハ樺太廳長官、陸軍大臣及海軍大臣ニ協議スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

1640

關
東
州
防
空
令
案

朕關東州防空令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十二年 月 日

内閣總理大臣

海軍大臣

陸軍大臣

勅令第 號

關東州防空令

第一條 關東州ニ於ケル防空ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外防空法

ニ依ル但シ同法中第七條、第十三條第二項、第十四條第二項、第十七

條、第二十條及第二十二條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

防空法中主務大臣トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、地方長官トアル

ハ關東州廳長官、市町村長トアルハ市長、市町村トアルハ市、勅令トアルハ關東局令、北海道又ハ府縣トアルハ關東州地方費トス但シ同法第十一條中主務大臣トアルハ大使、關東軍司令官又ハ旅順要港部司令官トス

第二條 旅順要港部司令官又ハ旅順要塞司令官ハ監視網構成ノ概要ニ付及陸海軍ノ行フ防衛ノ必要上使用ヲ禁止又ハ制限スルコトアルベキ土地建物ニ付防空計畫ノ設定上必要ナル事項ヲ防空計畫ノ設定者ニ通知スベシ

第三條 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テハ陸海軍ノ行フ防衛ニ則應セシムル爲必要ナル事項ニ關シテハ大使ハ關東軍司令官及旅順要港部司令官ニ、關東州廳長官ハ旅順要港部司令官及旅順要塞司令官ニ協議ス

ベシ

前項ノ通知アリタルトキハ之ニ準據シテ防空計畫ヲ設定スベシ

第四條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ大使ハ關係陸海軍司令官及關係官廳

ニ、關東州廳長官ハ關係官廳ニ協議スベシ

一 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ當該計畫中國ニ於テ管理スル土地家屋物件ノ使用ニ關スル事項

二 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル事項

三 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル指定及同條第二項ノ規定ニ依ル認可

四 設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可

ヲ要スルモノニ關スル防空法第五條ノ規定ニ依ル命令

五 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ニ對スル同法

第十條第一項ノ規定ニ依ル命令

第五條 防空ノ實施ノ開始及終止ハ大使之ヲ命ズ

大使前項ノ命令ヲ發シタルトキハ直ニ關東州廳長官及防空法第三條第一項ノ防空計畫ノ設定者ニ之ヲ通知スベシ

關東州廳長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ關係市長ニ之ヲ通知スベシ

大使第一項ノ命令ヲ發スルニ付テハ其ノ時期及區域ニ關シテハ關東軍司令官又ハ旅順要港部司令官ノ通知ニ依ルベシ

第六條 前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ開始命令アリタルトキハ防空計

臺ノ設定者ハ監視及之ニ伴フ通信ニ關シテハ直ニ之ヲ實施シ防空上必要ナル其ノ他ノ事項ニ關シテハ其ノ準備ヲ爲シ適宜之ヲ實施スベシ
監視及之ニ伴フ通信ハ前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ終止命令アル迄之ヲ繼續スベシ

第七條 防空ヲ實施スル場合ニ於テ航空機ノ來襲ニ關シテハ左ノ各號ノ區分ニ依リ防空警報ヲ發ス

- 一 警戒警報 航空機ノ來襲ノ虞アル場合
 - 二 警戒警報解除 航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合
 - 三 空襲警報 航空機ノ來襲ノ危険アル場合
 - 四 空襲警報解除 航空機ノ來襲ノ危険ナキニ至リタル場合
- 關東軍司令官、旅順要港部司令官又ハ旅順要塞司令官ノ發スル防空警

報ヲ以テ前項ノ防空警報トス

第八條 防空法第八條及第十條第三項ニ規定スル燈火管制ニ關スル命令ハ大使之ヲ定ム

大使前項ノ命令ヲ定ムルニ付テハ燈火ノ分類、管制ノ程度其ノ他軍事上必要ナル事項ニ關シテハ關東軍司令官又ハ旅順要港部司令官ノ通知ニ依ルベシ

第九條 防空法第十三條第一項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ、供用、收用又ハ使用ノ後六月ヲ經過シテ補償金額ノ決定ノ通知ヲ受ケザルトキハ其ノ期間經過シタル日ヨリ六月以内ニ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ防空法第十四條第一項ノ實費辨償ニ之ヲ準用ス

第十條 國庫ハ豫算ノ範圍内ニ於テ大使ノ定ムル所ニ依リ左ノ諸費ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

一 防空法第十五條第一項ノ規定ニ依リ關東州地方費、市又ハ同法第

三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ負擔スル費用

二 防空法第十五條第二項ノ規定ニ依リ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ノ負擔スル費用

三 防空委員會ニ關シ關東州地方費又ハ市ノ負擔スル費用

第十一條 大使防空法第三條第一項、第五條、第六條、第十一條、第十六條及第二十一條ノ規定ニ關スル事項ニ付規定ヲ設ケントスルトキハ關東軍司令官及旅順要港部司令官ニ協議スベシ

8カ91

附 則

本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム

1649



閱

貳 第三五三八號 其二

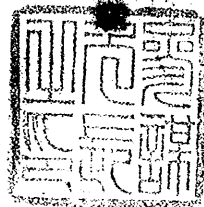
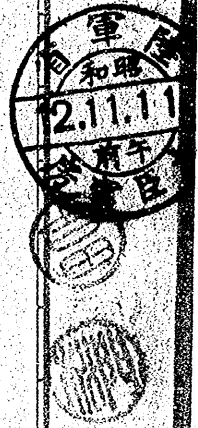
參謀本部 參第八七號 第二

防空法朝鮮施行令ニ關スル件回答

昭和十二年十一月十日 參謀次長 多田

陸軍次官 梅津美治郎 殿

陸普第六六九七號ニ依ル首題ノ件異存無之

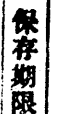



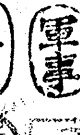



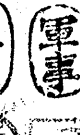


陸軍部 12.11.11

日本標準規格 B-6

貳 3558

1650

							
大臣 委員		局長 		次官 		政務次官 	
事務 		主務課長 		高級副官 		參與官 	
課 		主務課員 		主務副官 		書記官 	
主務課 		主務課 		主務課員 		書記官 	
局長 		局長 		局長 		局長 	
局長 		局長 		局長 		局長 	
(裁決)行決 覽回後		連帶 		連帶 		連帶 	
了結 昭 和 年 月 日		領受 昭 和 年 月 日		出提 昭 和 年 月 日		領受 昭 和 年 月 日	
房官臣大		課局務主		大臣 委員		件名 防空法朝鮮施行令ニ關スル件	
了結 昭 和 年 月 日		領受 昭 和 年 月 日		出提 昭 和 年 月 日		領受 昭 和 年 月 日	

1651

決

政務次官
回付

決裁前連帶
後課名(軍事)

(案四課)
(案三課)




起元廳(課)名

執行(決裁)後
回覽課名

貳第三五五八號其其

防備課



			審案 筆記者
---	---	---	-----------

1951

決行後再廻相成度
 防備課

陸普 次官ヨリ參謀次長へ照會

別冊防空法朝鮮施行令案ハ決定案ニシテ

近ク閣議ニ申請セラルヘキモノナルニ付異存ナ

クハ至急回答相成度

陸普第六六九七號

昭和十二年十二月六日

1653

防空法朝鮮施行令
(案)

勅令第

號

防蹙法朝鮮施行令

第一條 防蹙法ハ第十三條第二項、第十四條第二項及第二十條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ朝鮮ニ施行ス

第二條 防蹙法中第十六條及第二十二條ヲ除クノ外勅令トアルハ朝鮮總督府令トシ同法第九條中行政執行法トアルハ行政執行令トス

同法中主務大臣トアルハ朝鮮總督トス但シ同法第十一條中主務大臣トアルハ朝鮮總督、朝鮮軍司令官又ハ領海要港部司令官トス

同法中地方長官ノ指定スル市町村長又ハ市町村長トアルハ地方長官ノ指定スル行政廳トシ北海道又ハ府縣又ハ北海道、府縣トアルハ道トシ市町村トアル

ハ地方長官ノ指定スル行政廳ノ統轄スル公共團體トシ防空委員會トアルハ朝鮮防空委員會トス

第三條 防空法第十三條第一項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ、供用、收用又ハ使用ノ後六月ヲ経過シテ補償金額ノ決定ノ通知ヲ受ケザルトキハ其ノ期間経過シタル日ヨリ六月以内ニ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ防空法第十四條第一項ノ實費辨償ニ之ヲ準用ス

第四條 地方長官ハ防空法第十五條第一項ノ規定ニ依リ道ノ負擔スル費用ノ一部ヲ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ管内ノ關係アル公共團體ヲシテ負擔セシムルコトヲ得

第五條 朝鮮ニ於ケル防空法ノ施行ニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外防空法施行令第五條、第七條及第十四條乃至第十五條ノ規定ニ依ル但シ同令第五條中内務大臣トアルハ朝鮮總督トシ關係アル市町村長トアルハ地方長官ノ指定スル行政廳トシ同令第七條中防衛司令官、師團長、要塞司令官、鎮守府司令長官若ハ要港部司令官トアルハ朝鮮軍司令官、師團長、要塞司令官、鎮海要港部司令官トシ同令第十五條中陸軍大臣及海軍大臣トアルハ朝鮮軍司令官及鎮海要港部司令官トシ内務大臣トアルハ朝鮮總督トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

1657



貳 陸軍第五五八

參謀部 第七三 號第一

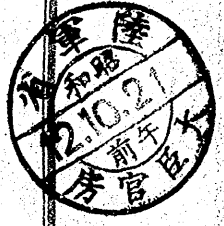
植民地防空法施行令ニ關スル件回答

昭和十二年十月廿日

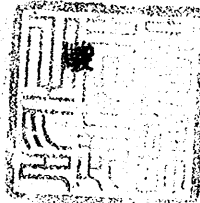
參謀次長 多田

陸軍次官 梅津美治郎殿

十月十六日附陸普第六二一三號ニ依リ照會ノ首題ノ件異存無之



軍



日本標準規格 B-5